

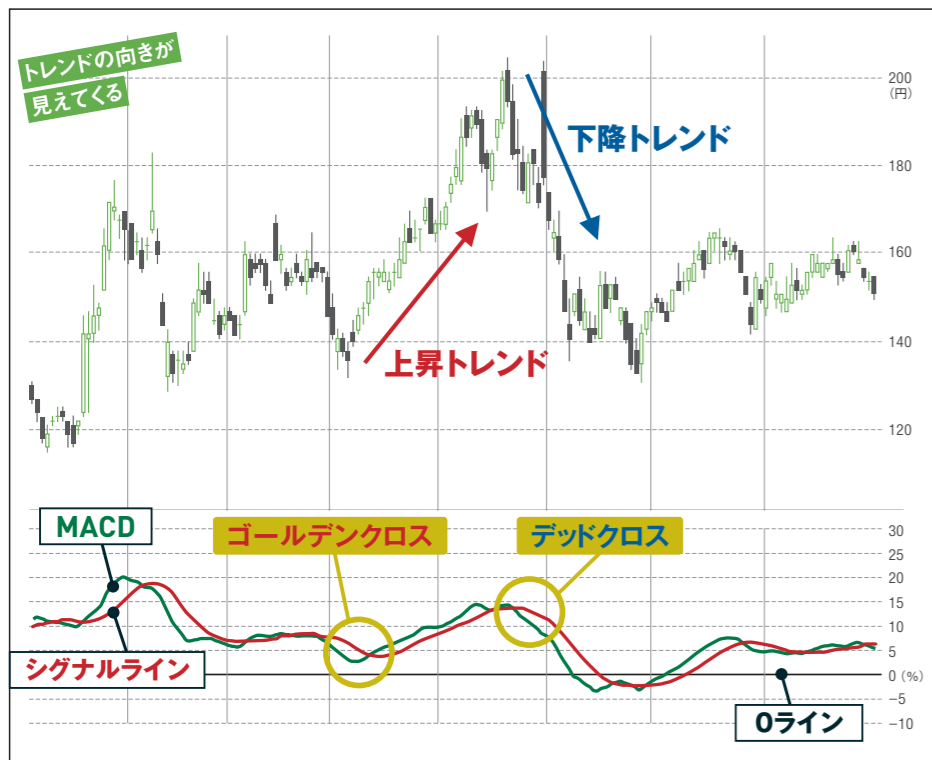
2本のラインのクロスが重要!

# ゴールデンクロスとデッドクロスを探せ!

MACDの基本

## MACDとシグナルクロスで売買を判断

買いサインと売りサインを把握する!  
MACDは移動平均線を利用した指標であり、移動平均線と同じように「ゴールデンクロス」と「デッドクロス」で売買サインが見つかる。また、それと同時に0ラインや通常の移動平均線を見ることで、さらに信頼度の高い売買サインを見つけることができる。



POINT!

**トレンドの転換!**  
MACDとシグナルの2本のラインが0ラインを超えると、実際の相場も上昇トレンドに転換したことがわかる。

買いサイン

●MACDがシグナルラインを下から上へ抜けたとき!  
⇒**ゴールデンクロス**  
●MACDにゴールデンクロスが発生し、さらに0ラインを上へ抜けたとき!

売りサイン

●MACDがシグナルラインを上から下へ抜けたとき!  
⇒**デッドクロス**  
●MACDにデッドクロスが発生し、さらに0ラインを下へ抜けたとき!

直近価格を重視した移動平均線を使用

「MACD」は、移動平均線を利用したテクニカル指標のひとつ。MACDと呼ばれるラインとシグナルラインで構成されており、この2本のラインが交差したときに売買のタイミングとなる。

基本的には、MACDがシグナルラインを下から上へ抜けたときが買いサイン、上から下へ抜けたときが売りサインとなる。

さらにこのとき、買いサインが出たあと、2本のラインが「0」ラインを上へ抜けると、より信頼性の高いサインとなるので見逃さないようにしたい。

同様に売りサインのあとに2本のラインが「0」ラインを下へ抜けると、より強力な売りサインとなる。これは、0ラインがトレンドの転換点として機能していることによる。



STEP EX

MACD

# MACDとシグナルのクロスが売買タイミング!

移動平均線をアレンジしたテクニカル

- ✓ MACDとシグナルの2本のラインがキモ
- ✓ ゴールデンクロスとデッドクロスで売買判断
- ✓ 0ラインで信頼性をみる

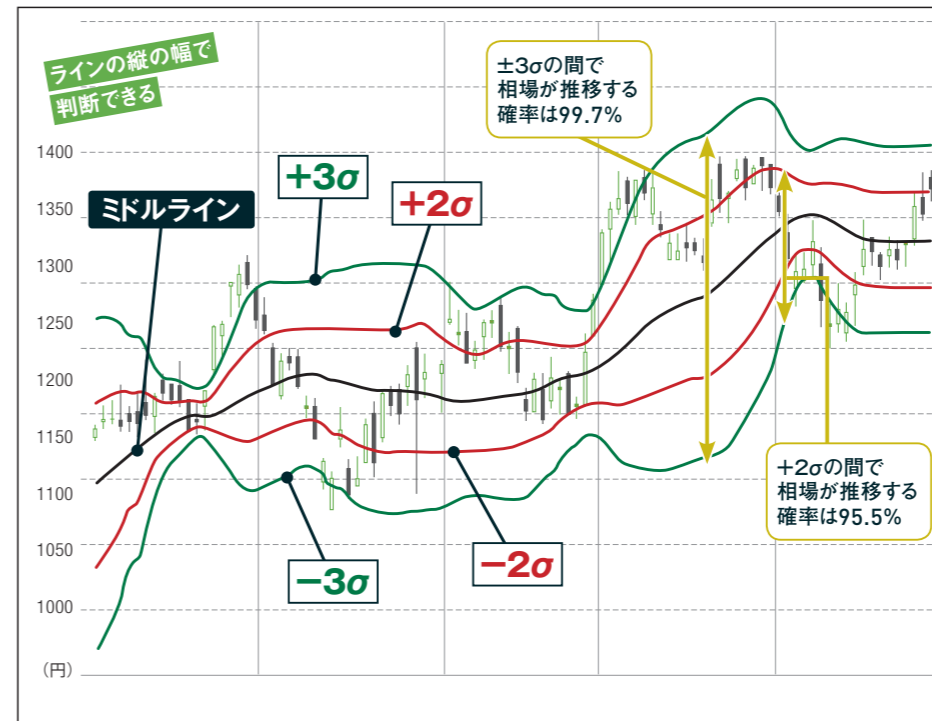
売られすぎ&買われすぎを見抜く分析法

# 5本のラインで売買タイミングを探る!

ボリンジャーバンドの基礎

## 将来の株価を予測する分析法

±2σに注目して売買  
ボリンジャーバンドは「+3σ」「+2σ」「ミドルライン」「-2σ」「-3σ」の5本の線で相場の動きを読む分析法。通常利用されるのは±2σだが、±3σも強力なサインなので、同時に表示しておきたい。



POINT!

**ライン間の幅に注目して**  
ライン間の幅が広がっているときはトレンドが強いことを表す。逆に、幅が狭まっているときはトレンドが弱いことを意味する。

売りのポイント 1

ローソク足が+2σ、あるいは+3σの線を突き抜けたとき。このとき相場は買われすぎの状態にあると判断できる。

売りのポイント 2

相場は±2σの範囲内からはみ出る可能性は低いため、ローソク足が+2σ付近まで接近したら、反転する可能性が高く、売りサインとなる。

買いのポイント 1

ローソク足が-2σ、あるいは-3σの線を突き抜けたとき。このとき相場は売られすぎの状態にあると判断できる。

買いのポイント 2

相場は±2σの範囲内からはみ出る可能性は低いため、ローソク足が-2σ付近まで接近したら、反転する可能性が高く、買いサインとなる。



STEP EX

ボリンジャーバンド

# ボリンジャーバンドで株価の動きを予測する!!

統計学の偏差値を使って相場を読む

5本の曲線で相場を分析

- ✓ 視覚的にわかりやすいテクニカル指標
- ✓ ±2σで売買を判断
- ✓ ±3σは出現しにくい強力なサイン

「ボリンジャーバンド」は、「そろそろ底値」「そろそろ反落する」というタイミングを計る指標だ。ボリンジャーバンドで重要なのは、±2σである。±2σの範囲外にローソク足が存在する確率は、わずか4.5%しかないとされるわけだから、ローソク足がプラス2σの線を上に突き抜けたら、相場が行きすぎ(買われすぎ)と判断できるのだ。行きすぎた相場は、±2σの範囲内に戻る可能性が高いので、ここが売りサインとなる。

マイナス2σも同様に、線がローソク足が下に抜けたら、売られすぎとなり、買いサインとなる。

なお、±3σは、その範囲外にローソク足がはみ出す確率が2.3%しかないため、売買サインが極端に出にくい。しかし、±3σをローソク足が突き抜けたら、それは±2σよりも強力なサインとなる。

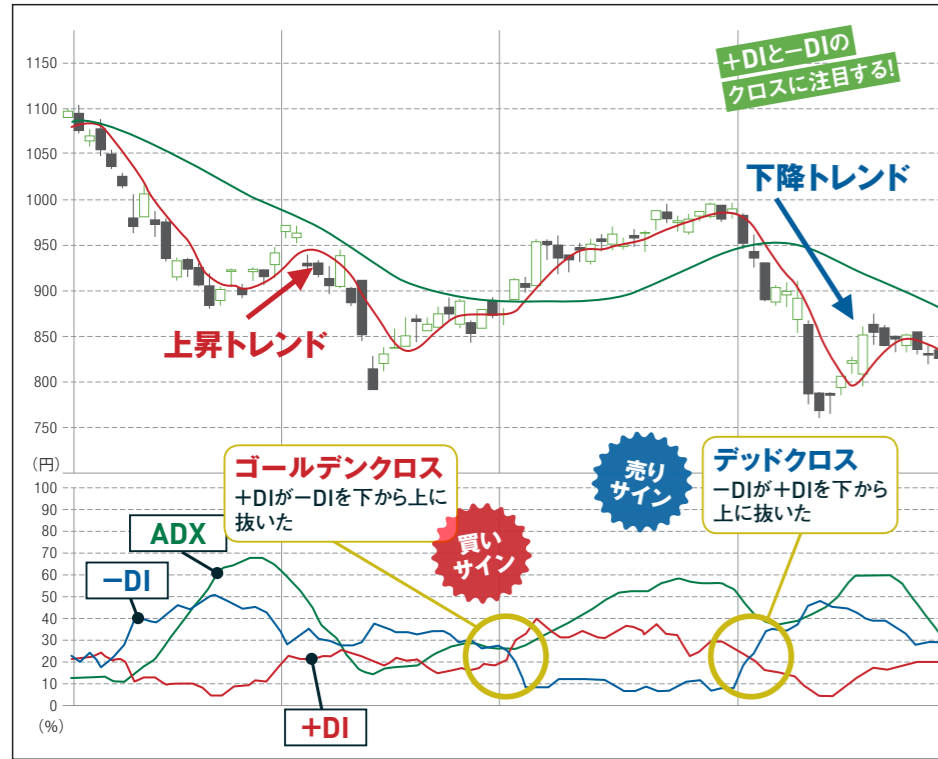
トレンドの強さと方向性を判断する

# 3本のラインが織りなすサインを読み解く

ADXの基本

## ADXの売りサインと買いサイン

ゴールドクロスとデッドクロスが売りサイン  
ほかのテクニカル指標と同じく、ADXの売買サインもライン同士のクロスを見る。+DIが-DIを下から上に抜くゴールドクロスが形成されたら買いサイン。一方、-DIが+DIを下から上に抜いたら売りサインとなる。



POINT!  
3本のラインの動きをよく見よう

ADXで表示される3本のラインは、密集→分散→密集を繰り返すが、密集地点がトレンドの転換点になることが多いといわれる。自分なりにチャートを分析して、トレンドの転換点になることを確認してみるといいだろう。

POINT!  
売りサイン

●ADXと-DIの2本のラインがともに上昇している状態

POINT!  
買いサイン

●ADXと+DIの2本のラインがともに上昇している状態

3本のラインで相場の方向と勢いを読む  
「ADX」は「ADX」「+DI」「-DI」という3本のラインを使って、トレンドの強さと方向性を見る分析法。ADXはトレンドの強さを、+DIと-DIはトレンドの方向を意味している。つまり、ADXが上昇している+DIも上昇している+DIが強い上昇トレンド、ADXが上昇している-DIが上昇している「強い下降トレンド」となる。  
また、+DIが-DIを下から上に抜いたときは買いサインとなる。一方、-DIが+DIを下から上に抜いたときは売りサインで、このとき-DIが+DIよりも上にあるときは下降トレンドが継続する。  
ADXが急上昇や急下降したときは、大きなトレンドが来る予兆となりやすい。ADXが下降に転じて、+DIもしくは-DIとクロスしたら、これまでのトレンドが終わったと判断できる。

- ✓ ADXはトレンドの強さもわかる
- ✓ +DIは上昇トレンドの強さを表す
- ✓ -DIは下降トレンドの強さを表す

# 3本のラインだけで相場の方向と勢いがわかる

トレンドの方向と強さを見極めるならコレ

STEP EX

ADX



相場の偏りを見抜く!

# “売り”と“買い”の目安をしっかりと確認!

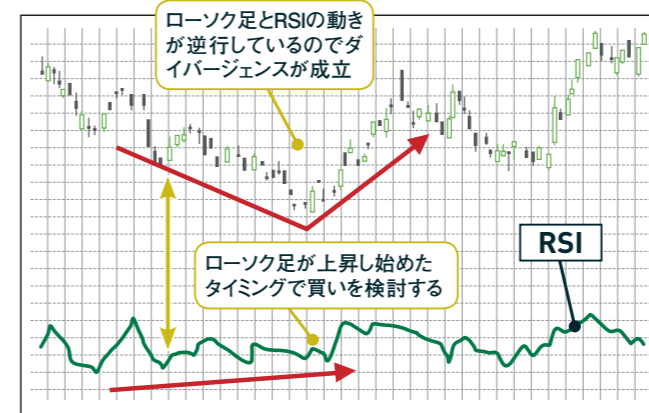
RSIの基本

## 30と70のラインが重要!

RSIのラインが70%のラインを超えると、その銘柄は買われすぎている状態と判断する人が増えるため、その後は下降トレンドに向かう可能性が高い。これは売りサインである。逆に30%のラインを下回ると売られすぎの状態だ。その後は上昇トレンドに転換する可能性が高いので、買いサインとなる。



POINT!  
ローソク足と動きが逆行するダイバージェンスは強力なサイン



POINT!  
70ラインと30ラインがRSIではとくに重要!  
上のチャート図で赤い部分が70ラインを超えた部分で、ここが「買われすぎ」ゾーンだ。そして、30ラインを下回った青い部分が「売られすぎ」ゾーンだ。投資家心理として、相場が買われすぎだと「売り」を入れ始める。逆もまたしかり。したがって、過熱した相場はやがて元に戻る可能性が高いというわけだ。「買われすぎ」ゾーンは売りのチャンス、「売られすぎ」ゾーンに入ったら買いのチャンスだ。

30ラインと70ラインで相場の過熱感がわかる  
相場の過熱感を計るテクニカル指標が「RSI」だ。簡単に説明すると、直近の任意の期間（9日間や14日間がよく利用される）の買い圧力、売り圧力のバランスを指数化したもの。上げ幅が大きければ、RSIは100%に近づき、下げ幅が大きければ0%に近づく。  
一般的には、RSIが75〜80であれば買われすぎ、つまり売りサインとされる。売られすぎの目安はRSIが20〜25%で、これが買いサインとなる。  
さらに、買われすぎのサイン（売りサイン）が出ているときに、RSIのラインが下降に転じたら、強い売りサインとして機能する。同様に、売られすぎのサイン（買いサイン）が出ているときに、RSIのラインが上昇しはじめたら強い買いサインとなる。

STEP EX

RSI

# 判断できるRSI 売られすぎ買われすぎを

オシレーター系の代表格

- ✓ オシレーター系テクニカル代表格
- ✓ 30と70の2本のラインが重要
- ✓ ダイバージェンスは強力なサイン

